

能代・映画祭り

「なぜ差別なくならない」

脚本家・加藤さん「破戒」語る

能代おもしろ映画祭りが30日、能代市の能代山本広域交流センターで始まり、いずれも能代市出身の脚本家・加藤正人さん(70)と俳優・笠井浩さん(41)が携わった作品を上映したほか、2人が舞台上で思いを語った。最終日のきょう1日は、黒澤明監督の作品を特集する。実行委員会の主催。

きょう黒澤作品を特集

加藤さんは「クライマーズ・ハイ」(2008年)などで日本アカデミー賞優秀脚本賞を受賞。この日は「破戒」(22年)を上映したほか、脚本化のエピソードを語った。

島崎藤村原作の「破戒」は部落差別をテーマとし、60年ぶり3度目の映画化。「今も性的少数者や外国人など、新たな差別の対象が生まれている。『なぜ差別は世の中からなくならないのか』をテーマに脚本化することで、現代に



自作について語る加藤さん

通じる内容になると思った」と振り返った。

原作の舞台である明治期の世相を説明し、テーマを明確にするためオリジナルのシーンやせりふを加えたという。「原作の良さを損なわず、より効果的に伝えるのが脚本家の役目」と述べ、「能代の皆さんに作品を見てもらえるのがあるがたい」と語った。

また、都内の劇団で活動する笠井さんが制作しユーチューブで公開しているショートドラマ集「秋田県能代市に生まれて」を上映した。



共演者と撮影を振り返る笠井さん(左)

1日は午前10時から「用心棒」「生きる」「天国と地獄」を上映。午後1時から加藤さんが黒澤作品の魅力について講演する。入れ替え制。入場料は1本分500円、2本以上千円。実行委事務局☎080・4131・3634

(佐藤辰)